

学会ニュースNo.112 トピックス

- ・2014年度第38回秋季例会
- ・評議委員会報告
- ・研究委員会の設置と委員募集の案内
- ・会費納入のお願い
- ・第111回臨地研究会のご案内(第2報)
- ・総会報告
- ・第69回研究発表大会報告

会告

○2014 年度第 38 回秋季例会・第 111 回臨地研究会の ご案内(第 2 報)

第 38 回立正地理学会秋季例会ならびに第 111 回臨地研究会を、以下の日程で開催します。多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。

第 38 回秋季例会(品川)のご案内

第 38 回秋季例会は、地理教育に関するシンポジウムを開催します。現行の学習指導要領で強調されている「動態地誌」を基本テーマとして取り上げ、基調講演、教科書執筆者による講演、授業実践報告(卒業生による)、総合討論より構成します。現職として教壇に立たれている会員をはじめ、教員を目指す学生、広く学校教育に関心を寄せる皆様の参加をお待ちしております。

1. 日時:2014 年 11 月 22 日(土)13 時 30 分～17 時 00 分
※会場の受付開始は 13 時 00 分から
2. 会場:立正大学品川キャンパス(品川区大崎 4-2-16) 11 号館 5 階 1151 教室
 - ・テーマ:「動態地誌と諸地域学習—立正の地理教育が目指すもの—」
 - ・ねらい:学習指導要領改訂に伴う諸地域学習のあり方の変化とそれへの対応
諸地域学習と地図利用の実際と工夫
これからの地域学習と「立正地理」に期待すること
 - ・プログラム:
 - 13 時 00 分 シンポジウム開始 趣旨説明
 - 13 時 05 分 基調講演 竹内裕一(千葉大学)「地誌学習のあり方を考える」
 - 13 時 55 分 学習指導要領の改訂と教科書(各 25 分)
内山 幸久(立正大学)〈高校教科書〉「高等学校地理教科書の執筆に関して」
島津 弘(立正大学)〈中学教科書〉「中学社会地理への入り口としての
『世界各地の人々の生活と環境』」
 - 14 時 45 分 《休 憩》
 - 15 時 00 分 授業実践(各 20 分)

①関 寿子氏(茗溪学園中学高校)

「フィールドワーク実践紹介—SSH 指定校における地理学習—」

②常井仁美氏(岡山県立津山高校)

「『朝鮮半島』を動態地誌的に考察する授業実践例について」

③小泉啓三氏(市立船橋高校)

「アメリカ地誌の実践例」

16時00分 総合討論 司会:上原洋祐氏(福岡県立筑紫丘高校校長)

17時00分 終了

《懇親会(秋季例会)》

1. 会場:6号館学生食堂 スエヒロ (品川キャンパス 6号館 1階)

2. 会費:一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円

懇親会は 22 日(土)17 時 15 分～19 時の予定です。参加を希望される方は、4 頁の「※懇親会(秋季例会)・臨地研究会・懇親会(臨地研究会)の申込み」に従い、必ず集会委員会までお申し込みください。宿泊は各自でご予約をお願いします。

《秋季例会会場(立正大学品川キャンパス)へのアクセス》

JR「大崎駅」・「五反田駅」から徒歩5分、東急池上線「大崎広小路駅」から徒歩1分、東急目黒線「不動前駅」から徒歩13分です。JR「大崎駅」には山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線が乗り入れています。

※品川キャンパスに来場者向けの駐車場・駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。詳しくは、以下の地図をご覧ください。



立正大学品川キャンパスへのアクセス

(立正大学 HP <http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa/>より引用)



品川キャンパスマップ

第 111 回臨地研究会のご案内

1. 日時:2014年11月23日(日)9時30分~16時30分
2. 集合場所・時間:JR根岸線 関内駅南口(横浜市役所脇の駅前広場) 9時30分
3. テーマ:寒村から国際港都横浜へ その原点旧居留地の変貌
4. 案内者:大塚昌利・戸田真夏・小田巻 滋・田村健太郎
5. 参加費:会員(一般・学生)は2,000円、非会員は4,000円
(ランドマークタワー展望台入場券、傷害保険掛金など)
6. コース:関内駅ー関内駅周辺ー吉田橋ー馬車道ー桜木町駅ーランドマークタワー展望台ーみなとみらい21地区ー2班に分かれる(A班:汽車道ー新港地区)、(B班:クイーンズスクエアー新港地区)ーA・B班合流後、赤レンガ倉庫ー象の鼻パークー神奈川県庁付近ー中華街ー元町ー中華街西門・吉浜橋(解散16時30分を予定)
※昼食は13時~13時30分頃を予定しています。そろって食事する時間的余裕がない上に混雑も予想されるので、コンビニの軽食で済ませていただく予定です(各自自費)。前もって用意していただいても結構です。
7. 解散場所:中華街西門・吉浜橋(JR根岸線石川町駅まで約50mの場所)
8. 募集定員:25名(先着順)
9. 懇親会(臨地研究会):中華街にて17時30分開始予定
(会費:一般会員・非会員5,000円、学生会員3,000円)

◎内容に変更があった場合は、立正地理学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)でお知らせいたします。

○懇親会(秋季例会)・臨地研究会・懇親会(臨地研究会)の申込み

締め切りは10月31日(火)必着とします。送り先、メールアドレスは次の通りです。
住所:〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内 立正地理学会集会委員会
メールアドレス:geosoc@ris.ac.jp

1. 懇親会(秋季例会)に参加を希望される方

参加を希望する会員は、ハガキもしくは電子メールに氏名・所属・電話番号・電子メールアドレスを明記し、立正地理学会集会委員会宛にご連絡ください。

2. 臨地研究会・懇親会(臨地研究会)に参加を希望される方

参加を希望する会員は、ハガキもしくは電子メールに氏名・所属・電話番号・電子メールアドレス・住所・生年月日を明記し、立正地理学会集会委員会宛にご連絡ください。住所および生年月日は、傷害保険およびランドマークタワー入場券を事前購入するため、必要な情報になります。さらに、「懇親会(臨地研究会)の参加・不参加」をお知らせください。

○災害等により開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって秋季例会等の開催が困難な場合は、立正地理学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)または立正大学地理学科ホームページ(<http://rissho-map.jp/>)でお知らせいたします。

○2014 年度立正地理学会評議員会報告

2014年6月6日(金)18時より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ6階会議室において、出席者14名、委任状提出者14名、計28名にて評議委員会が開催された。議事では、2013年度事業報告が各委員長よりなされた。次に、2013年度決算報告が鈴木重雄庶務会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2014年度事業計画・予算案、立正地理学会研究委員会に関する内規の改正案が提出され、いずれの事項も承認された。

○2014 年度(第69回)立正地理学会総会報告

2014年6月7日(土)11時30分より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブA203教室において、出席者60名、委任状提出者191名、計251名にて総会が開催された。正議長に萩原八郎会員、副議長に岡田 登会員を選出し議事に入った。議事では、2013年度事業報告が島津常任委員長から、決算報告が鈴木重雄庶務会計委員長から、会計監査報告が岩動会計監査からなされた。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2014年度事業計画案、予算案、立正地理学会役員・委員案が提出され、審議後いずれの事項も承認された。また立正地理学会研究委員会に関する内規の改正の報告がなされた。

○研究委員会の設置と委員募集の案内

1 継続の委員会のお知らせ

「房総における岩」研究委員会(継続)

代表:戸田 真夏

期間:2013年4月~2015年3月

2 立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2015 年度の研究委員会を募集します。希望者は下記に示した「立正地理学会研究委員会に関する規程」を熟読の上、規程の 5 の内容を明記した趣旨書を、島津常任委員長宛(当面の間、常任委員長扱いとします)に郵送(住所等は最終ページに記載してあります)、またはメール(アドレス: geosoc@ris.ac.jp, 件名: 立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2015 年 4 月 15 日(水)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

立正地理学会研究委員会に関する内規

1. 研究委員会の設置: 立正地理学会に、研究委員会をおくことができる。
2. 目的: 研究委員会は、地理学の研究・教育に資する成果を挙げることを目的とし、その調査・研究に対して、学会より研究費を補助する。
3. 研究委員会の所轄: 研究委員会の募集・決定・審査・成果の開示等に関する一連の管轄は、副常任委員長が行う。
4. 研究委員会の募集: 副常任委員長は前年度の秋に発行される学会ニュースにおいて、研究委員会の募集、書類の提出期限について告知する。同内容は学会ウェブサイト上でも告知する。なお、書類の提出期限は、当該年度初めとし、前年度末に発行される学会ニュースでも再度募集の告知をする。
5. 研究委員会の設立: 研究委員会の設置を希望する会員は、研究委員会の代表者となり、研究テーマ、会員名、研究委員会成立後の追加募集人員、研究期間、研究の目的、予測される成果を明記し、決められた期限までに副常任委員長に提出する。なお、研究委員会は設立時に3名以上で組織する。また、学生会員も代表となることができるが、研究委員会には1名以上の一般会員を含むものとする。
6. 研究委員会の成立: 副常任委員長は、申請内容に基づき研究委員会の成立の可否を常任委員とともに検討し、その結果を代表者に伝える。
7. 研究委員会成立の説明と委員の追加募集: 副常任委員長は、成立した研究委員会の代表者名、研究テーマ、研究期間、追加募集人員等を当該年度の総会で説明し、学会ニュース、学会ウェブサイトに掲載する。また、研究代表者は必要に応じて学会ニュース、学会ウェブサイト上で委員を追加募集する。なお、研究委員会は広く会員に開かれたものであることが望ましい。
8. 研究委員会の発足: 成立をみた研究委員会は、代表者が中心となって活動を行う。
9. 研究委員会の年限: 研究委員会の活動期間は2年とする。ただし、その後1年間の延長を可とする。その場合、研究委員会の代表者は研究の中間報告書と延長する理由書を、副常任委員長に提出しなければならない。
10. 研究費: 研究費は、1研究委員会に対して年額 10 万円を上限とする。予算は研究委員会の成立と同時に執行ができる。
11. 会計報告: 会計年度は、立正地理学会の会計年度に準じる。毎年度末に当該年度の収支報告書に領収書を添えて、副常任委員長に提出しなければならない。
12. 研究委員会の終了: 研究委員会の終了時には、終了報告書を副常任委員長に提出しなければならない。
13. 成果の公表: 研究委員会の活動中にあつては、立正地理学会研究発表大会において、中間報告を行うこと。なお、研究委員会終了後は、口頭発表のほか、『地域研究』にその成果を投稿するものとする。
14. 内規の改廃: 本内規は常任委員長または副常任委員長が発議し、評議員会の議を経て行うものとする。

(常任委員長 島津 弘)

○2014 年度(第 69 回)立正地理学会研究発表報告

1. 2014 年度 研究発表大会の概要

日時:2014 年 6 月 7 日(土) 総会・研究発表 9:40~17:00 懇親会 17:15~19:15

会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ 2 階

大会参加人数:およそ 70 名



写真1 口頭発表(武江 翔太会員撮影)



写真2 ポスター発表(松澤 希望会員撮影)

2. 2014 年度発表大会取材レポート

研究発表に関する広報委員の取材レポートです。

<口頭発表>

森田匡俊(立正大)・小池則満(愛知工業大)・小林哲郎(Pivotal ジャパン株式会社):GPS
データを用いた小学生の集団津波避難行動の分析

本発表は、GPSを用いた新たな手法による集団での津波避難行動の把握と分析をまとめたものです。小学校の避難訓練時に、クラス先頭と最後尾の移動履歴をGPSによって取得したデータから線オブジェクトを作成することで、クラス単位の避難行動履歴を把握していました。

平坦な直線道路においては、速度が速くなり、隊列は非常に長くなるなど、道路状況や地形によって隊列が大きく変化することに興味を持ちました。今後、避難行動の解析にGPSを用いた手法が多く取り入れられることで、災害時に迅速な避難が実現できるのではないかと感じました。

(広報委員:武江 翔太)

市南文一(岡山大)・古田祐一郎(生協おかやまコープ):岡山県南部における施設ナス経営環境とその推移

今回、市南先生は古田祐一郎様(生協おかやまコープ)と連名で、「岡山県南部における施設ナス経営環境とその推移」という発表をされました。もともと市南先生は、多変量解析を利用して数値計算し、地域の諸特性を説明することに興味があり、院修士までは都市・都市圏を主に研究していたそうですが、院博士以降は農業地理学に転じ、現在に至っているそうです。

今回発表された研究の契機は、岡山県の野菜では、ナスが最大の出荷額であり、その生産構造を調べてみたいと考えたことだそうです。近くに、硝酸性窒素の溶脱を研究している土壌学の研究者がいることや、ナスが多肥・高温多湿を好む作物であることから、農業生産者が自然環境に対してどのような意識をもって作物を栽培しているのかを確認したいと思われたそうです。また、調べ始めると、特別なことはないことも改めてわかったそうです。研究の楽しみについても伺ってみました。農家の方々が、JAなどに依存しながら多くの技術を組み合わせる農業経営を維持していることを理解することが楽しみな一方、農業経営費が上昇する中で現状維持に精一杯であることを知れば、複雑な気持ちを抱かざるを得ないそうです。施設ナスの農業経営費のうち、労働費が最大であるが、農業経営者の多くは、近年の値上がりが顕著であるA重油の動向をも懸念しているとのことでした。さらに、研究の苦労としては、農家の方は多忙な収穫作業があるので、聴き取り調査に協力していただくことは、簡単ではないと仰っていました。

今回のご発表では、情報を得ることの困難さに対して「足で稼ぐ」ことの大切さも改めて感じました。お忙しい中、取材をご快諾くださいました市波先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(広報委員:山田淳一)

〈ポスター発表〉

河野 忠(立正大)・三上開拓・矢板 岳(立正大・学):樹根から湧出する湧水と樹種の特徴に関する研究

本発表では木の根元から湧出している湧水について、長年湧水が見られる樹木の特徴及びその湧水の水質についての考察がされていました。まず樹木の根系に着目すると、対象の樹木に共通点が見られないため、根が水に強ければ湧出しうることが示され、さらに枝葉は雨水が樹冠に集まり、根幹を流れ、根元に集水しやすい形状であるイチヨウなどの枝葉が上方向に伸びている樹種に、湧水が見られることが明らかにされていました。水質と樹種との関係については、樹冠面積が広い樹木は窒素酸化物や硫黄酸化物を捕集しやすく、根は防腐効果のあるタンニンが多く含まれている場合があることが分かりました。皆さんもこのような湧水を見たら、ぜひ木の形状などを観察してみてください。

(広報委員:飯山 和也)

〈地理写真〉

植村早紀・塩野早貴(立正大・学):フィンランドの生活文化

今回の大会では海外フィールドワークについての写真が展示されていました。その中でも、私は4年生の植村さんと塩野さんの「フィンランドの生活文化」に注目しました。そこにはフィンランドの食事や施設、フィンランドでの日本食レストランの写真が掲載されていました。特に印象に残った写真は軍事施設の写真です。日本と違い、18歳以上のすべての男性に6~12か月の兵役が課せられており、戦闘機を目にすることがあることに私はとても驚きました。私はこのような日本では見られないことや、外国の中の日本を見ることができ、とてもおもしろいなと感じました。ぜひ私も海外フィールドワークに参加したいと思いました。

(広報委員:井藤 志穂)

山田淳一(立正大):東北地方太平洋沖地震がもたらした景観変化—被災から3年間の 岩手県大船渡市の変容

本発表は東日本大震災の津波による被災前の当日(2011年3月11日)の大船渡市と被災後の大船渡市を5カ月、1年、2年、3年と復興の様子を辿ったものです。今もなお復興は続いており、社宅やインフラは整備されつつありますが道は陰しいままであり、人の心に残った傷は癒えていないのが現状です。しかし、それと同時に震災の風化が始まっています。3年たった今、「車を持っていたら海の近くに住んでもいいのではなかろうか」という声が上がっていることを山田先生からお聞きしました。こうした声は津波の被害がなかった地域に住んでいた私には衝撃的なものでした。みなさんの心の中でも震災が風化されていないでしょうか。今一度、震災に向き合うことが大切だと思います。

(広報委員:松澤 希望)

〈学生インタビュー〉

2014年度発表大会に参加した立正大学地理学科の学生のみなさんから、大会に参加しての感想や学んだことについてインタビューしました。今年参加しなかった学生のみなさんはぜひ来年度の大会に参加しましょう。

地球環境科学部 地理学科 1年 齊藤 朋美

私が興味関心を持った発表は森田匡俊先生の「GPS データを用いた小学生の集団津波避難行動の分析」の発表です。避難する隊列の先頭と最後尾のGPSのデータから、ただ距離だけで速度や隊列の長さが増えるのではなく、様々な条件や状況により変化していることが分かりました。数字だけのデータではなく、いろいろな方面からのアプローチが必要だと知ることができました。

地球環境科学部 地理学科 2年 永西 修也

今回特に興味を持った発表は郷原裕生さんの「高知市中心市街地における路面電車利用者の行動分析」についてです。私は以前から交通地理学に興味があり、この発表では交通機関ごとの利用者の特徴について知ることができました。また、学会の発表全てから、多くのことを学ぶことができました。今後、研究・発表するときの参考にしたいです。

地球環境科学部 地理学科 3年 深澤 新

今回の発表の中で、特に3年生の戸澤右門さんの「フィンランドの学校」のポスターが印象的でした。丁寧に作成されており、空中写真と地図を照らし合わせることによってよりわかりやすいと感じました。ポスター発表における工夫を学ぶことができました。今後、ぜひ参考にしたいポスターでした。

地球環境科学部 地理学科 3年 増田 翔太

今回特に興味を持ったのは竹澤史也さんの「千葉県北西部における旧軍用地転換」についての発表です。この発表では旧軍用地の転換および土地利用についてきくことができ、他の旧軍用地と比較しても面白そうだと感じました。また、研究目的や分析方法については、ぜひ卒業論文の参考にしようと思います。

地球環境科学部 地理学科 4年 根岸 浩平

近年地震、津波への対策が強化されている中、愛知県の小学校を事例にしてGPSを用いた森田匡俊先生の「GPS データを用いた小学生の集団津波避難行動の分析」の発表はとて興味深かったです。小学生の避難の様子をグループごとに列の長さや速度に着目し、アニメーションで表現していたので、とても分かりやすかったです。地震が発生した際、避難にはどれくらいの時間がかかるのか、どこへどのように避難をしたらよいのかを認識しておくことの重要性を改めて感じました。

(広報委員:飯山 和也・井藤 志穂・松澤 希望)

〈先輩から学生のみなさんへのメッセージ〉

2014年度発表大会に参加しておられ、さまざまな分野で活躍されている地理学科OBの方々に、学生のみなさんへのアドバイスなどを伺いました。

富永 学さん(茨城県立波崎柳川高校)

大学時代は、茨城県鹿嶋市の土地変容について土地利用調査などを用い研究を行っていました。また、学生時代は長期休業中に中国をはじめ、東南アジア、南アジア、西アジアへと世界各地を旅しておりました。

地理学科の学生として学んでおくべきことは、日本と世界を学び視野を広げることが必要であると思います。特に教員を目指している学生は教科書や資料などのペーパーの知識だけでなく、現地に出かけその場所を自分の目で確認することが大切です。また、出かけた先で多くの人と出会ってほしいと思います。

元木 理寿さん(常盤大学)

現在、鹿児島県沖永良部島を対象に、水利用の変化と保全管理についての調査研究と、水資源を基軸としたESD実践を行っています。

地理学を学ぶ一歩として、是非いろいろなフィールドに出てみてください。仲間と学外で街歩きしてみるのも良いかもしれません。身近な場所であっても何人かで歩けば、新しい発見があるはず。多くの場所に足を運び、人との出会いの機会を持つことで、地理学を学ぶ楽しさを実感できると思います。

阿部 興二郎さん(朝日航洋株式会社)

大学時代は島津先生のゼミで「釧路湿原国立公園における河川改修工事による河川への影響」という題目で研究をしていました。

現在は朝日航洋株式会社で営業を行っています。仕事の中で地理学を生かす場面としては、転勤先や営業先で自治体名称などの地名や場所がすぐに出ることで、相手とコミュニケーションを取ることができます。

(広報委員:武江 翔太)

○会費納入のお願い

会費納入状況のお知らせを同封させていただきました。会員の方は、2014年度分の会費を、払込取扱票にてご納入ください。過年度分の会費が未納の方は、あわせてご納入願います。会費の金額および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

(庶務会計委員会)

編集後記

6月に行われた立正地理学会におきましては、多くのみなさまにご参加いただき、誠にありがとうございました。また、インタビューに快くお答えいただきまして感謝申し上げます。今年度の秋季例会は品川キャンパス、臨地研究会は横浜で行われます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(広報委員:武江 翔太)

立正地理学会ニュース No.112

2014年10月15日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453